

エンロフロキサシンを有効成分とする飲水添加剤、強制経口投与剤及び注射剤並びにフルニキシメグルミンを有効成分とする注射剤の**使用禁止期間が変更**されました（平成21年5月27日施行）

医薬品	対象動物	使用禁止期間	
		改正後	改正前
エンロフロキサシン飲水添加剤 (ハイトル 10%液)	鶏（産卵鶏除く）	食用に供するために屠殺する前 4日間	7日間
エンロフロキサシン強制経口投与剤 (ハイトル 2.5%HV液)	牛(生後3月を超えるものを除く。)	食用に供するために屠殺する前 12日間	30日間
エンロフロキサシン注射剤 (ハイトル 2.5%、5%、10%注射液)	牛	食用に供するために屠殺する前 14日間 、 搾乳する前 96時間	21日間、 搾乳する前 96時間
	豚	食用に供するために屠殺する前 14日間	20日間
フルニキシメグルミン注射剤 (フォーベット 50注射液、 ファイジン 50注射液)	豚 牛馬は変更 無し	食用に供するために屠殺する前 21日間	28日間

用法・用量は改正前と変更ありません。

牛海綿状脳症(BSE)検査の徹底について 牛飼養農家の皆様へ

農場から検査施設への**輸送の遅延**により、採材が不可能となったり、**月齢の誤認**等により検査をせず焼却処理される等の不適切な事例が稀に確認されています。

BSEまん延防止と国産牛肉に対する消費者の信頼確保のためには、徹底した死亡牛の BSE 検査が重要となりますので、以下の点について御協力をお願いします。

➤ 24 か月齢以上の死亡牛の検査施設への搬入

- 牛が死亡したら、可能な限り**獣医師の検案**を受け、**NOSAI や家畜改良センターに報告**

飼養している牛が死亡した場合は、月齢にかかわらず、全て(独)家畜改良センターに届出をする必要があります。

- 速やかに運搬業者に連絡し、搬出されるまでの間は日の当たらない涼しい場所に保管**

➤ 整理票への記入および家畜保健衛生所への届出

- 死亡牛整理票(4枚複写)へ必要事項を記載するとともに、1枚目(白色・A票)を速やかに家畜保健衛生所に FAX (TEL でも対応可)**

➤ 耳標装着の確認

- 死亡牛に**個体識別番号の付いた耳標がついていることを確認**。外れた場合は、当該牛の**識別番号を記載した札等**を取り付けるとともに、**個体を確認できる書類のコピー**を添付

暑熱被害対策について

家畜の暑熱対策は早め早めの取り組みが、家畜の生産性・繁殖力低下防止に繋がります。以下にポイントを示しますので、農場に合った対策を取り入れてください。

1 畜舎内に入る熱を減らす

よしず、遮光ネット等の設置、植樹（日光が直接家畜に当たらないようにする）
植樹：ツルムラサキ等（兵庫県では琉球朝顔がよいとも言われています）
遮光設備は自然の風も遮るため、送風装置等も合わせて活用することが必要です。
屋根裏面への断熱材設置、屋根への白色ペンキや石灰の塗布

2 風の利用

換気扇、ダクト、送風ファンの設置
送風ファンは乳牛で3頭に1台がベスト。ON/OFFのみでなくインバータを設置し、8割程度の風力を維持することが電気代、風力効率面でよいとされます。

3 水の利用

屋根への散水（昼間一番暑い時間帯に実施できるメリットがあります）
井戸水が豊富にある農場での実施に向いています。園芸用スプリンクラー等活用。
細霧システムの導入
気温が高く湿度が低い時（昼間の高温時）に効果がありますが、特に牛・豚は湿度の影響も受けるため、湿度を必要以上に上げない工夫も必要です。
鶏では牛・豚より湿度の影響受けにくいと言われているので、細霧は有効です。
家畜への直接散水
乳牛でパーラー搾乳実施している場合、通路で牛体散水することにより、搾乳後の飼料摂取率UPになるとの報告があります。
養豚農家では、凍らせたペットボトルを首の部分に滴下するように設置する方法（ペットボトルクーリング）も有効とされています。

4 家畜の管理

密飼を避ける
新鮮水の不断給水
ビタミン・ミネラルの供給
適正な飼料給与
飼料のカビ発生に注意が必要です。
乳牛では、暑熱の影響で粗飼料の摂取量が減少すると、相対的に濃厚飼料の摂取割合が増加し、アシドーシスの危険性がUPします。デンブン（濃厚飼料）量を減らし、バイパス油脂・バイパス蛋白・重層を添加することや、粗飼料摂取量を増やすため、乾草をカット（3～5cm）し、多回給与する等の対策が必要です。
熱増加は脂肪<炭水化物<タンパク質の順番で高くなるため、熱増加の低い脂肪（油脂）を添加し、摂取エネルギーを増加させることが有効との報告もあります。
採食量の低下防止として、飼料は涼しい時間帯に給与し、給与回数を増やす。
畜舎環境を良好に保つ
アンモニアやハエ対策も重要です。

【ハエ対策】脱皮阻害剤を用いた幼虫対策が有効ですが、基本は発生源を減らすことにあります。掃除しにくく、栄養源・水分・温度が十分にある場所（糞や餌がたまる場所、水場周辺等）をこまめに掃除することが重要です。また、サシバエ対策として、目のサイズ2cmのネットで畜舎を覆う（特にサシバエの休息場所である草むらに面する畜舎側面を中心に張る）ことが有効です。

栃木県県央家畜保健衛生所

〒321-0905 宇都宮市平出工業団地 6-8

E-mail : kenou-khe@pref.tochigi.lg.jp

TEL : 028 - 689 - 1200

FAX : 028 - 689 - 1279